

2017年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます

教室だより 10月



公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

子どもを読書好きに

本が好きな子、本から学べる子になってほしいと思っておられる方は少なくないと思います。

では、どうすればお子さまが本好きになってくれるでしょうか。

それは、まず親に本を読む習慣があるかないか。これが大きいそうです。いくら「本を読みなさい」とくり返し言っても、親が本を読んでいる姿を一度も見ることがなければ効果はありません。

また、いつでも本が手に取れる環境にあることも、子どもを読書好きにする方法としては有効なようです。子どものレベルにあった本を、さりげなくキッチンや子ども部屋、寝室などに分散して置いてみてください。

小さいうちから図書館に頻繁に連れて行くのもいいですね。自分で読む本を選ぶという体験を通して、読書の楽しさを感じてくれるかもしれません。

それから、これがいちばん大切なのかもしれません。「ほめる」こと。子どもはほめられた方向に伸びていきます。

まず、親がお手本を見せ、子どもの行動を引き出すシカケをし、子どもがやった（できた）ことをすかさずほめる。

これのくり返しで、お子さまに読書習慣をつけてあげましょう。

家族みんなで読書をする時間を生活の中に取り入れ、ぜひ「読書の秋」を満喫してくださいね。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“英文をらくらく読めるようになり、国際社会にはばたく人材に”

一人ひとりの子どもを最大限に伸ばす公文式英語は、個人別、学力別であることはもちろんですが、目標を一つにしぼります。それは、「読む」力をだんぜん強くすることです。言葉に親しませながら、徐々に言葉の量を増やし、文章や本をどんどん読みこなす読解力をつけるのです。読解力がつけば、知的好奇心と知能の働きはますます高く、活発になります。ですから、向学心が高まり、学校の総合成績はもちろん、進学のためにも圧倒的に有利となります。

公文式では、学習を続けていくうちに先へ進み、英文を楽に、興味を持って読めるようになります。そして英語で書かれた好きな分野の本を数多く読むことで、幅広い知識と深い教養を身につけることができます。会話中心の英語と違って、教材学習を通して知識や情報などを吸収できるようになる学習法ですから、真に豊かな国際人として、国際社会にはばたく人材となることができます。このような人材を育てることが公文式英語の目指していることです。

2017年 10月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9 休みの日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構です
で連絡をお願いします。

10月分の会費引き落としは9月28日（木）
です。よろしくお願いいたします。

（注）休会・退会の場合は、引き落としの関係から
15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は
固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれ
も10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即
退出してもらいます。ご了承ください。

KUMON

様

*ゆき子の一言コラム

公文式がつけてくれる力

宿題が多すぎると学校の宿題もあり、子どもも大変だと思うのですが？という親御さんにお答えします。宿題無理なくできる量です。大体お渡しするのは、基本的に低学年は一日10ページ、高学年はほとんどが5ページです。

公文で宿題をさせる最大の目的は**学力の定着**と**学習習慣づけ**が主な目的です。

宿題の量は、お子さまや保護者の方のご意見も伺いながら、一緒に決めさせていただきます。

一日5枚ずつ宿題をする人もいれば、全く宿題をせずにルンルン気分で来る人もいます。

でも、しない子に比べて一目瞭然。進度が遅く時間がかかって先になかなか進めません。

すべての子供たちは教室でお勉強するのは好きなのですが、宿題はどの子でもやりたくないもの。

でも、お母さんはなるべくたくさん枚数を勉強させたい、その為に親子喧嘩が絶えないとか。

これではいけませんね。習い事も公文のお勉強も、毎日少しずつ積み重ねた方が力はつきます。

また、基本的に教室で学習した宿題をお渡ししますので、保護者の方が一から教える必要もありません。

毎日宿題をしているかどうかを気にしてあげるだけです。そして、全部しっかりやったかの確認をしてください。

また、時間に余裕のある子は、学校の宿題をしている子もいますし、宿題の解らないところをサポートしています。

公文で宿題をさせる最大の目的は、学力の定着と学習習慣づけが主な目的です。単にやらせているわけではないので、親御さんのご協力が大事です。

公文の繰り返し学習は何をするの？

「公文のくりかえして学習させる方法は、脳を刺激して思考力をアップさせ、繰り返し学習することで、脳を活性化するためです。」「これ前にやった問題で、簡単だ!」とか、スピードと考える力が付きます。

スポーツで、野球やゴルフ、サッカーなどが上手くなるのに、ランニングや筋トレが抜けさせませんが、この毎日基本的単純なトレーニングをちょっと怠けてしまうと、人によっては上達しないというよりレベルが落ちます。

子どもにとっては、毎日のトレーニングが公文式の繰り返し学習なんです。

公文の学習の基本は「自学自習」です。と言っても当節教えないとなかなか進まないのか実体ですが、公文の教材はスローステップで作成されていて、教えられなくても教材の順に読んで解いてゆけば、自分一人で出来るように配慮されています。ただ当節の子供達はてっとり早く答えだけを教えてもらおうとしますが、公文ではまず、答えの出し方のヒント、問題の解き方の課程でどこが間違っているのかを教えます。本当にわからなくて困っているときや、新しい内容を学習するときはマンツーマンで直感的に理解するまで数えます。そして出来るようになるまで繰り返し練習します。

“同じ内容を何回も繰り返す”

なぜ同じ事を繰り返すのですか?よく聞く質問ですが、ピアノやスポーツクラブのスイミングも繰り返して練習しませんか?これと同じ事なのです。

1回目はやることに必死! 2回目は理解しつつ解いていく。

3回目は自分のペースで解いていく・・・。

個人差はありますが、この繰り返しによって難解な問題も自分のものとして使いこなせるようになるのです。

小学1年生が足し算に困っていても、大人達はスラスラ出来ますよね。

これは、過去の反復練習の成果です。

確実な学力にと、さらに自分のものにするための反復練習なのです。

「解るのは簡単!出来るのは大変!」なのです。

5枚のプリントを学習するのに、10分で出来る子もいれば30分以上もかかる子もいます。

大人にも言えますが、一つのことを仕事するのにテキパキと1時間で仕上げる人もいれば、2時間以上かかる人もいます。家事も同じことが言えます。

1日は24時間しかありません。やるべき事は早くやってしまっ、その後は、自分のやりたい事に時間を使った方が有効なはず。集中力を増し、作業能力をつけテキパキと学習が出来るように、始める時間と終わった時間を計るのです。

すこしは分かってもらえましたか?